

# 研究紀要

亀山市立中部中学校

教育大綱 基本方針-1

## 未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研修基本方針

「一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら  
なかまとともに主体的に学ぶために」

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

2020年度研究主題

「互いを認めつながり合う仲間づくり」  
～気づきから行動へ！！実践力のある生徒の育成を目指して～

### 《主題設定の理由》

(研究領域:全領域)

本校の多くの生徒は、自ら気持ちの良い挨拶ができ、その明るく元気な様子は、授業や学級活動、別学校行事など、あらゆる場面において生き生きと自己表現する姿につながっている。昨年度は、仲間づくりに向けた基本的な取組として、「聴き合う姿」「学び合う姿」「認め合う姿」について、各教科や分野ごとに具体的にどの様な姿であるかを想像し、その実現に向けた方法を模索した。一方、学力の向上と定着に向けては、全ての教科において共通取組である『書く力』の充実を図ってきた。その結果として、「書くことに対する抵抗感の払拭」という一定の成果が見受けられ、書く活動の充実を図ることができたと言える。しかし一方では、「全国学力・学習状況調査」や「みえスタディ・チェック」の結果をはじめ、授業中の発言や学習の様子からは、『読む力・読み取る力』を伸ばさせる必要性が高いことがわかった。また、「互いを認め合う」活動に関しては、「何のために仲間づくりに取り組むのか」を全ての教職員の共通理解のもと、全領域において日常的かつ意識的に思考させ、その実践を行ってきた。特に、自分の思いや考えを綴ったり、声に出したりできる生徒は増えてきた。その反面、仲間の思いに対して自分の思いを返したり、心無い言動に対して立ち止まって考え合ったりすることは、まだまだ未熟な部分が見受けられる。以上のことから、「問題を読み解く力をどのようにつけていくか」を重視していく必要があること、「安心して過ごせる学校」「居心地の良い学級」を生徒自らの手で実現できるような取組を推進することが、生徒同士が互いの個性を尊重しつながり合う集団を育成する上で急務であることが浮き彫りになってきた。このような現状を踏まえて今年度の研究主題は、昨年度の「互いに認め合う仲間づくり」に加えて「つながり合う力」も重視し、『互いを認めつながり合う仲間づくり』としたい。あらゆる学習から自分なりの気づきを得て、その思いを発信していくためには、勇気をもって「一歩踏み出す行動」へ移行していくことが必要である。身の周りで感じている差別や偏見に対して、自分の思いを伝えるのみに終わらせず、どのような手立てを講じれば行動に変えていくことができるのかを、教師は子どもたちと一緒に考えていきたい。さらには、サブテーマに「気づきから行動へ！！」を掲げ、各教科全領域で意識することにより、主体的に発言したり行動したりできる、実践力のある生徒を育てていきたいと考えるものである。

## 《「安心して過ごせる学校」、「居心地の良い学級」を目指すための指針》

### 「聴き合い学び合う姿」の創造

- ・安心して「わからない」や「困っている」が言い合える雰囲気（仲間関係）がある。
- ・相手の伝えたいことや気持ちを、理解しようという姿勢で聴いている（積極的な傾聴）。
- ・目で見て、体を向け、心を開いて、相手の思いを受け止めている。
- ・聴く相手のことを考え、自分の思いを自分の言葉でわかりやすく話している。
- ・相手の言葉につなげて発言し、新たな考えを生み出している。
- ・相手に教えることで、自分の理解も深めることができている。
- ・様々な考えに触れることで、知識を広め、多様な考え方ができるようになっている。



### 「認め合いつながり合う姿」の創造

- ・自分に自信を持ち、相手の良さに気づいている。
- ・仲間との関わりの中で、互いの違いに気づき、相手のことを理解しようと努力している。
- ・互いの思いや考えを伝え合い、高まり合える関係を作っている。
- ・自分の考えを豊かにし、他者とつながることの喜びを感じている。

## 《仲間づくりについての考え方・手立て》

- ・子どもの姿や子どもを取りまく環境から子どもの実態を知り、学級・学年としての課題を見つける。そのための視点として、以下のことに気を配りながら取組を進める。
  - ①身のまわりの差別や生活の中で感じている不安・悩みなどについて、ともに考え解決していこうとする姿をめざす。【いじめや差別の予防としての人権教育・仲間づくり】
  - ②視点生徒（気になる生徒、弱い立場におかれている生徒）を中心にすえて「学級づくり」を進める。視点生徒を通して学級・学年の課題を把握し、周りの生徒の変容を見据えながら、視点生徒と仲間をつなぐ手立てを考える。
  - ③教職員が常に方向性の意図をもって取組を進める。「何のために、だれとだれをつないでいくか」の具体策を交流する。
  - ④人権・部落問題学習と結びつけて取組を進める。人権・部落問題学習で学んだことを、自分の生活や学級集団の中にある課題と重ねて考えたり、解決に向けて行動したりすることができる生徒の育成を目指す。
- ・子どもたちの「学ぶ意欲」や「他者と関わる意欲」を高めるために、自己肯定感や自己有用感を高める取組を推進し、安心して学びに向かえる（「教室は間違ふところだ」という雰囲気）仲間づくりをしていく。
- ・「私」を主語にして思いを伝えることができるよう、「綴る」活動や「話す」活動（自己開示ができる活動）を積極的に行っていく。

# 《研究の構想図》

## ◆学校教育目標

『主体的に学び 心豊かに たくましく生きる生徒の育成  
～ “深く学び合う” 場の創造を目指して 』

### 【めざす学校像】

- お互いの違いを認め合い、つながり合って生き生きと活動できる学校
- 主体的で対話的な深い学びが実感できる学校
- 教室が居心地の良い場所となる学校
- 保護者や地域の人々と連携協働し、ともに歩む学校
- 「命」を大切にし、生徒と向き合った温かい指導ができる学校



### 【めざす生徒像】

- 自分や相手の思いを大切にする生徒
- 意欲を持って主体的に行動する生徒
- 夢や希望をかなえるために自ら進んで学ぶ生徒
- 地域の活動に積極的に取り組む生徒
- 心身ともに健康で「命」を大切にする生徒

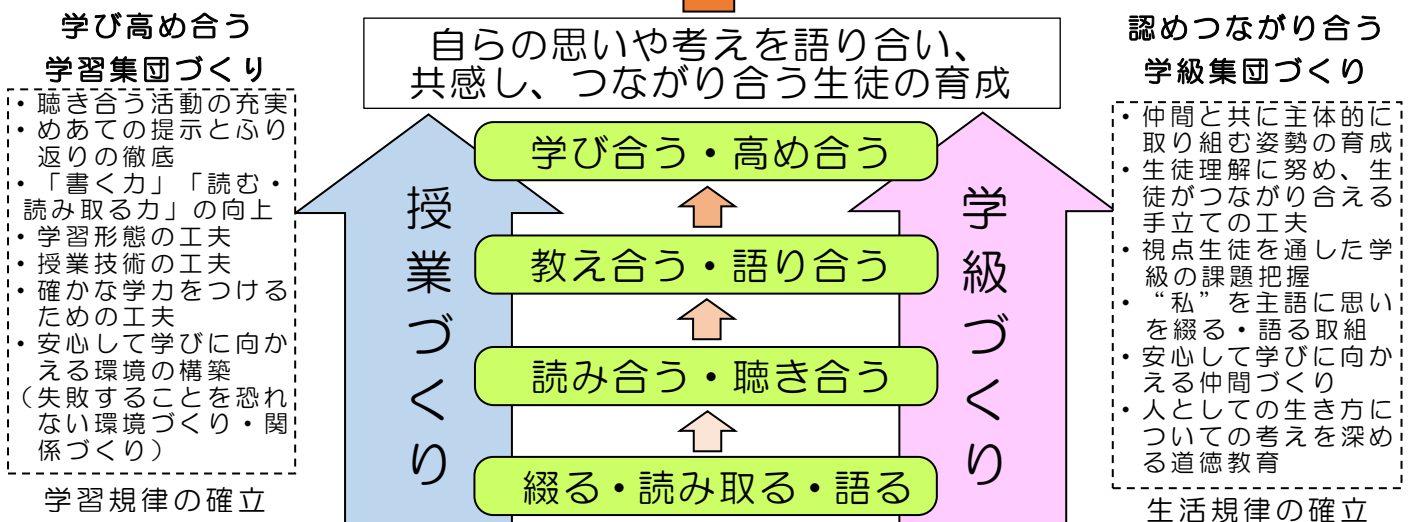
### 【めざす教職員像】

- 生徒一人ひとりに応じた支援と指導ができる教職員
- 指導力の向上に努めるとともに、魅力ある教育活動を積極的に創造する教職員
- 保護者や地域の思いや願いに寄り添い支える教職員
- 互いに高め合い学び合う協働的な同僚性を大切にする教職員
- 心身ともに健康で「命」を大切にする教職員



研究主題 「互いに認めつながり合う仲間づくり」

～気づきから行動へ！！実践力のある生徒の育成を目指して～



## 人権教育を基底にすえた仲間づくり

(自らの思いを安心して語り、つながり合う仲間の構築を目指す)

## あらゆる教育活動における 人権教育

(自己と向き合う姿勢・自己開示・アイメッセージ・積極的な傾聴・自尊感情)

## 《取組の力点》

### 1. 人権教育において

同和教育の理念を根底に置いた人権教育の推進を目指し、すべての教育活動の中で「子どもたち一人ひとりの人権が尊重された学校であるか」を念頭に日々の実践を行う。

- (1) 仲間づくり・自主活動に努める取組
- (2) 人権・部落問題学習の取組
- (3) 保護者・地域との連携を深める取組
- (4) 教職員の人権意識を高める取組

### 2. 学級づくりにおいて

「居心地の良い学級」づくりをめざし、一年間の学級経営を進める。認め合い、支え合い、つながり合う学級集団づくりを行う。

- (1) 仲間とともに主体的に取り組む姿勢の育成
- (2) 生徒理解に基づく、生徒がつながりあえる手立てと工夫
- (3) 視点生徒を通じた学級の課題把握と、学級集団の成長をねらった仲間づくり
- (4) 自分の思いを綴り、周りに伝える活動の充実

### 3. 授業づくりにおいて

基礎学力の定着と向上に努め、主体的に学ぶことのできる生徒の育成をめざす。学び合い、つながり合う学級集団づくりに努める。

- (1) 確かな学力をつけるための工夫  
「めあての提示とふり返りの徹底」「『書く力』・『読む力・読み取る力』の育成」  
「ICTの活用」「家庭学習の充実」「補充学習の充実」
- (2) 深く学び合う場の創造  
「学習形態や発問の工夫」「安心して考えを伝えられる雰囲気づくり」  
「書く活動、読み取る活動の充実」
- (3) 主体的な学びの構築  
「積極的な授業公開と意見交換」「生徒会とタイアップした学習の取組」

### 4. 道徳教育において

多様な考えを受け入れる態度を身につけるとともに、自らの力で未来を切り拓くことのできる生徒の育成をめざす。

- (1) 考え、議論する活動の充実  
自分の考えや感じ方を明らかにし、仲間の考えや感じ方を知り、自己をふり返ることで、確かな自己理解につなげる。
- (2) 道徳的価値の理解をめざすための工夫  
「価値理解」、「人間理解」、「他者理解」、「自己理解」の4つの理解を念頭に置きながら学習を進め、授業の始めと終わりの自分の考えの変容に気づかせる。

### 5. キャリア教育において

社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育て、それぞれの生き方を多様な視点を持って選択できるように各領域での学習を推進する。

- (1) 「基礎的・汎用的能力」の育成を目指す。  
「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」の4つの能力を意識しながら、学習の推進を図る。
- (2) 社会情勢をめぐる環境の変化に対応できる進路選択を考えていくために、地域・家庭との連携をさらに深め、より良いキャリア教育を共に進める。